

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103995
法人名	株式会社ファミリーケア
事業所名	ファミリーケアなかの
所在地	松山市中野町甲293-2
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の方々の尊厳・利用者同士のつながりを大切に、日々の暮らしを安全に楽しく生活して頂けるよう支援を行っている。</p> <p>全職員で情報を共有し相談・検討を行い同じ目標を持ちチームで介護支援に取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設10年目を迎える事業所は、松山市郊外の田畑や木々などに囲まれた広い敷地にあり、四季折々の季節を感じることができる。2～3年前に利用者の入退所が相次ぎ、比較的介護度の低い利用者層への入れ替わりがあったため、利用者同士の絆を含めた支援に努めている。利用者同士が助け合いながら生活が送れるよう、スタッフは黒子のような存在となりながら、「夢(思い)を叶える」という理念を念頭に置き、ケアに取り組んでいる。自然に利用者の間には役割り分担ができ、張りのある生活へと繋がっている様子が伺えた。事業所に家族や知人が気軽に訪問できるよう取り組んでおり、一緒に行事に参加してもらう工夫をしている。職員の対応で気になる点があれば、その場に集まり話し合える環境が整っており、情報を共有しながら一貫性のあるケアに取り組むことができています。また、職員が利用者毎の担当制を取っており、介護支援専門員と共に介護計画の作成に携わっていることにより、介護職としての自信に繋がっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ファミリーケアなかの

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)

氏名 曽根 直矢

評価完了日

平成 26 年 8 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設当初からの理念であり、一人ひとりの「思い=夢」を大切に日々の生活を送って頂き、地域社会と協力し支援していく様に努めている。本社よりの理念・行動指針・基準を設定しており、質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 「利用者の『夢・思い』を大切にしながら支援したい」という職員の願いなどを込めた理念を作成している。申し送り時や月1回のミーティング時に理念の振り返りを行い、職員間で気づいたことは実践の中でお互いに声をかけ合いながら、日々のケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ごみ置き場の提供、秋祭りには地域の方々の休憩所として使って頂き、まもるくんの家に登録し立ち寄りやすい場である様とし、また町内の川掃除も参加している。</p> <p>(外部評価) 民生委員や地元に住んでいる職員から地域の行事などの情報を得て、利用者と一緒に参加するよう心がけている。近隣には新興住宅があり、秋祭り時などは休憩場所として面識のある近所の子どものトイレを借りに来ることもある。地域には児童養護施設があり、クリスマス会などの行事には職員と子ども達がダンスを披露してくれるなど、利用者は楽しみにしている。事業所の行事には知人や家族などの参加もあり、気軽に訪問してもらい地域に根ざした事業所となるよう努めている。また、認知症の相談に応じるなど、地域へ情報を発信していくことを検討している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 利用者のご家族様の知人のなど相談を受けている。認知症、介護方法などで悩んでいる方の相談の場として、運営推進会議や家族会に参加出来る様、窓口を広げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ご家族、介護保険課、地域包括、看護師の方に参加をして頂き、状況報告、加算、食事メニュー、看取り介護、金銭管理、ケアプランなどについて話し合い意見を頂いている。また、お花見、クリスマス会の時に運営推進会議を行いご家族間や地域の方々との繋がりを深めるようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域包括支援センター職員、他の施設職員、市担当者等の参加を得て2か月に1回開催している。会議では活動報告のほか、災害対策や看取りなどのテーマで参加者と活発な意見交換をしている。また、同時にクリスマス会などの行事を開催する工夫をするなど、家族や知人の参加も多い。運営に参考になる意見が数多く出されており、運営やサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方に運営推進会議に参加して頂き、相談・助言を頂いており、その場で分からないことは持ち帰り適切な助言を頂いている。また必要に応じ電話にて相談をしている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の実情や取組みを伝えるほか、感染症などの情報やアドバイスをもらっている。また、必要に応じて、生活福祉課など他の部署と連携を取りながら、利用者の生活を支えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施錠はせず、ベッドで転倒のリスクの高い方は畳部屋としている。また、センサーマット、鈴などの利用にて四点柵の拘束は行っていない。拘束防止の事業内研修も行っている。	
			(外部評価) 年間の研修計画に身体拘束等の勉強会を必ず盛り込み、身体拘束をしないケアについて考える機会を設けることで、職員間の意思統一を図り理解して実践している。また、日々のケアの中で利用者の行動を強要する声かけをしていないかなど、申し送り時に話し合いながら、利用者の思いに寄り添うケアに努めている。また、玄関は自由に出入りすることができ、職員は外出しようとする利用者の後をついていくなど見守りをして対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 介護の仕方一つでも虐待の可能性がある為、スタッフ間で注意し必要時は相談、改善を行っている。声掛け一つにも注意し不快感を与えない様、努めている。また、利用者への心身の異常にも気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度があることは知っているが十分理解している状況ではない。研修等に参加し知識を付ける必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な話し合い、分かりやすい説明を心掛け、納得を頂ける様、努めている。改定などの変更にも速やかな対応と説明を十分に行っている。入退所時にも細かく説明を行っている。また、運営推進会議においても再度加算などの説明をしている。要介護認定変更時にも話し合い説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にご家族、地域の方々に参加して頂き、ご意見、ご要望を頂いている。また面会時には利用者の方の様子を説明し、ご家族のご意見やご要望を伺い、全職員に申し送りをし思いを共有している。	
			(外部評価) 職員は家族に事業所を「母親の家だと思って入って来てください」と伝えるなど、訪問しやすく話しやすい雰囲気づくりをしている。家族の訪問や行事への参加も多く、気軽に意見を言ってもらっている。また、手紙や電話などで利用者の様子を伝え、良好な関係づくりに努めている。遠方や疎遠になりがちな家族には、管理者が家族の状況を配慮しながら電話連絡し、意見を聞き、事業所との関係が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 職員の意見が自由に言える環境が整っており管理者が本社に その意見を伝えている。また意見箱を設置しており本社へ直 接意見が出来る環境となっている。	
			(外部評価) 管理者は日頃から介護現場へ入り職員と一緒に業務をしてい るため、職員は意見や要望を伝えやすい環境である。会社の 部長も頻回に事業所を訪れ、事業所での課題や要望に迅速に 対応できる体制が取れているほか、会社全体で職員の働きや やすい職場づくりに取り組んでいる。また、職員の育成にも力 を入れており、外部研修に頼るだけでなく会社として年間の 研修計画があり内容も充実しているため、自己研鑽ができ介 護職としての自信にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 半年ごとに自分で目標を立て個々の進み具合を確認出来るシ ステムがあり個人のスキルアップを図っている。それらにて 給与の見直しに反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内研修・外部研修の案内を職員に伝え希望者、または 必要と思われる職員には受講できるよう考慮している。ま た、研修報告を行い全職員のスキルが高まるようにしてい る。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議参加の案内はしているが出席はして頂いていな い。他事業所との繋がりを持てるよう連絡会には参加するよ うにしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にはご本人、ご家族の方にホームを見学して頂き、話 し合いの場を設けている。 ホームに来られない方には訪問し、お話をさせて頂いてい る。ホームで安心して生活して頂けるようご本人の要望、不 安など言いやすい環境づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談し、ご家族の要望をしっかりと聞き取り知り得た情報は職員全員が理解と共有を行い、安心して頂ける様、努めている。気になる事があればその都度ご本人、ご家族様へ報告を行い速やかに対応を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族様の希望を面談時にしっかりと聞き取り、今、必要としていることを見極め支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の能力に合ったお手伝いやできることをして頂いており、その中で自ずと役割が出来ている。 また、役割の中で利用者同士が助け合いながら日々の生活を送っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月のお便りやブログなどで近況報告をしたり、外出行事、お花見、クリスマスには手伝って頂き、ご家族間、職員、家族間同士の繋がりを持てるようにしている。家族様とは連絡を密に取り合い、様々な問題を共有し相談しながらより良い支援が出来るように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出行事には馴染みのある場所へ出掛けている。友人、知人来所時にはゆっくりとした時間を過ごせるようにし、来所しやすい雰囲気作りに努めている。 本人の希望をご家族に伝え外出の機会を作っている。 (クリスマス会にて交流を持ったお子さん達へ手紙を出している) (外部評価) 家族の協力を得て石手寺へ参拝したり、家族と共に知人が行事に参加したりと、馴染みの関係が途切れないような働きかけを行っている。同地域の児童養護施設の子供たちとの交流もあり、継続して手紙交換をするなど、新たな馴染みの関係も構築されつつある。今後は、パート職員の協力を得ながら個別の外出支援を充実させ、希薄になりがちな馴染みの関係に目を向けた支援を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の支援のより、洗濯や食事の準備、盛り付けなど出来る事・出来ない事を利用者同士で協力し、助け合いながら行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 記録などは規定に基づき保存し、いつでも提供できるようにしている。また、ホームを出られた方にはいつでも相談を受けられる体制を整えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 無理強いせず、自分のペースで穏やかに安心して生活出来るよう努めている。訴えや気になることがあれば毎日の申し送りなどに話し合いを行い速やかな解決に努めている。意思表示が困難な方は表情や単発的な発語などにて読み取るようにつとめている。追記シートを新たに作り気づきを記入し全職員の情報共有のツールとなっている。 (外部評価) 日常会話の中から利用者の思いや希望をくみ取り把握するようにしている。普段言葉に出さない思いを職員と1対1となる居室や入浴時などに話をする利用者もおり、職員は傾聴し把握している。新たに把握した内容は、申し送り時などに報告し職員間で共有して話し合い、家族の協力を得ながら実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の話し合いの時に、ご本人の生活状況、好きなことなどを聞き取りを行い、その情報を職員全員が共有し、その人らしい生活が送れる様、努めている。入所後も本人、その家族と話し合い新たな情報を頂けるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃の関わりの中より出来ること、出来ないことを見極めている。利用者の行動や表情をよく観察し、何かあれば申し送り時等に話し合いをし、心身の状態把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人、ご家族の想いや意見、要望を伺い、話し合いの中でケアプランを作成している。必要に応じて見直しを行っている。ケアプラン変更時は、A、B、Cで評価(A達成・B継続・C出来ていない)しているが、7月より様式を変更する。モニタリング及び、評価の欄を設け達成率が分かりやすい書式の様式を見直した。 (外部評価) 職員の利用者毎の担当制を取っており、利用者や家族の思いや意向を介護計画に反映しやすく、利用者本位の介護計画になるよう留意している。作成した介護計画はカンファレンスで職員全員が共有し、目標が達成できるよう努めている。今年の7月から新たな記録様式に変更し、職員全員が日々のケアの中で実施状況を記録し、分かりやすくモニタリングが行えるよう現在試行段階である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の関わりを持ち続けている中で気づきを具体的に記録している。申し送り・ミーティング時に話し合いを持ち、ケアプラン見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ訪問看護など臨機応変に対応を心掛けている。専門医の受診が困難な方は往診を依頼できる体制をとっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的に訪問美容室を利用している。 ボランティア、ご家族とその友人、地域の方々と交流を持つようしている。 消防署の協力を得て避難、応急手当講習を定期的に受けている。 宗教上の関わりや会合などへの参加を継続的に行ったり、新聞を購読している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に希望を聞き、継続受診を希望される場合は、引き続 き受診が出来るよう配慮している。必要時には本人、ご家 族、主治医と相談し、専門医療機関を受診している。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きる。精神科など専門医の受診介助は職員が同行している が、通常の受診は家族が同行している。受診内容は家族に聞 き、医療ノートに記録して情報を共有している。事業所には 3名の看護師を配置しているほか、職員全員が利用者の健康 状態を把握するよう努めて支援しており、利用者や家族の安 心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ユニット毎に看護師がおり、細かな事も相談報告している。 医療ノートも個別化し、全職員が利用者の体調を把握し、医 師・看護師・家族への報告・相談が出来るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中、退院後にも利用者が安心できるように、職員が交代 で出向くようにしている。また早期退院に向け病院関係者と 話し合いの機会を持つようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にも終末期のホームでの取り組みを説明している。終 末期だけでなく運営推進会議等で看取りケアについての話し 合う機会を持っている。また、その状況に至った場合には家 族・医師・ホームで話し合いをもち、お互いの理解の中で家 族の協力・職員のチームケアが出来るように取り組んでい る。	
			(外部評価) 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、終末期に事 業所で対応できる内容を入居時に利用者や家族に説明してい る。事業所では数名の看取り支援の経験がある。利用者や家 族の安心と納得が得られるよう、段階に応じて医師を含めて 繰り返し話し合いを行い、家族の協力を得ながらチーム体制 で安心して最期が迎えらるよう支援をしている。また、他 の利用者もその状況を受け入れて一緒にお見送りを行い、 「看取り支援」を事業所全体で取り組んだ経験もある。今後 も職員間で勉強会を実施し、安心して事業所を利用してもら えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルを備えている。ほとんどの職員が普通救命講習を取得しているが、消防署の協力の下、定期的(年1回)に応急手当の訓練を行い、しっかり対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。災害時には地元の消防団の方に協力して頂ける事になっている。食料や水の備蓄は常に行っており、災害時は地域の方を受け入れる体制も出来ている。警備会社との契約もしている。 (外部評価) 年2回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。災害対策について運営推進会議で参加者と意見交換を行ったり、避難訓練の前には職員間で事前に話し合い、訓練後には消防署員に疑問点などを質問しアドバイスももらっている。職員の家族に消防団員がおり、災害発生時には協力をお願いしているほか、警備会社が駆けつけてくれる契約をしている。会社として風水害の防災マニュアルを作成しているが、南海トラフ地震に備えたマニュアル作成を現在検討しており、マニュアルができ次第、事業所独自の対策を行う予定である。	利用者の安心安全な生活を守るため、職員間で災害に備えた話し合いを継続して行い、自主的に避難訓練を継続して行うことを期待したい。また、会社として地震対策などのマニュアルを作成しているが、災害ケースや地域の実情に合わせた事業所独自のマニュアルを整備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個性や性格を考慮した上で話し方、呼び方、声掛けの仕方などに気を配っている。排泄時の失敗など他者に気付かれない様処置を行い、傷つけない声掛けの配慮を行っている。好ましくない声掛けは職員で注意をし合っている。 (外部評価) 日頃から利用者への声かけやケアには気を配り、一人ひとりの状況に合わせた対応をしている。男性職員が多いが、入浴介助などは利用者の同性介助の希望や要望を聞きながら、羞恥心やプライバシーにも配慮した支援をしている。利用者を尊重した対応を心がけているが、気になることがあった場合には職員間でその都度注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者との会話を交わし希望など言いやすい環境作りに努めている。ご本人の気持ちを優先させ無理強いせず細かなことでもご本人が決める様にしていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の体調や状態に合わせた起床時間や食事の時間などを考慮し、個人にあった一日の過ごし方を考えているが体調を考慮した上で、その日の状況（外出・受診など）によってはホームの都合が優先してしまうこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧品等もご本人の希望に合わせて購入している。買い物に行き好みの服を購入している。 入浴時に顔そり等を行い身だしなみに努めている。 訪問美容院を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は各テーブルに一人スタッフが座るようにし、楽しく食事が出来るよう努めている。日常支援より盛り付け、準備、お盆拭き等の役割が出来ている。 利用者の好みを聞きメニューに取り入れている。 (外部評価) 利用者の希望のメニューを取り入れながら、栄養面や品数、味付けなどに配慮して献立を作成し、職員が調理している。近隣からの差し入れや事業所の畑で取れた旬の野菜を使ったメニューをその都度加えている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気ですべてを食べている。また、お花見弁当を作って外出先で食べたり、外食も取り入れたりするなど、利用者に食事が楽しめる工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、必要に応じて水分量を記録している。ラコール、OS1など主治医の意見、指導を受け、一人ひとりに合った食事形態やその日の状態によって食事内容も考慮している。必要に応じて食べやすい食器に変えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で歯磨き、ケアが行えるように声掛けをしている。出来ない方は口腔ティッシュ、スポンジなどを使い残差物を除き清潔の保持に努めている。口腔内に異常があれば往診の先生に相談しながら支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄時チェック表を利用し、個人の排泄時間を把握するよう努め必要に応じて声掛けや一部介助を行っている。なるべくトイレでの排泄が出来るように支援している。排泄がみられない時には時間を考慮し再びトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄時チェック表を記録し利用者一人ひとりの排泄パターンとそこにあった排泄リズムを把握し、声かけをして誘導しトイレで排泄できるよう支援している。重度化のためやむを得ずオムツを使用している利用者もいるが、排泄方法などはミーティング等で話し合い、利用者に合わせた排泄方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 起床時や日中の水分摂取に気を付け食事形態、運動などに気を配り個々に応じた予防に取り組み必要に応じて医師の指示の下緩下剤を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 行事や外出時以外にご本人の希望を確認し、時間や入浴方法を決めている。無理強いをせず、時間や日をずらしたりしている。異性の介助が嫌な方は同性職員が介助にあたるようにしている。必要に応じてバイタルを測定し入浴をしている。	
			(外部評価) 浴室にはシャワーチェア等の福祉用具を設置している。重度化している利用者にも安全に湯船に気持ち良く浸かれるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、無理強いせず声かけを工夫するなど、見守りながら入浴したい気持ちになるよう対応している。また、同性や異性介助の希望にも配慮しながら、気持ち良く気兼ねなく入浴ができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調や前夜の睡眠状況を把握し、昼夜逆転が起こらない様、その時々で居室での休息や、日中の活動を支援し心地よく眠れるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用する薬の副作用などは理解できており、副作用と思われる場合は速やかに主治医に相談している。誤薬などを防止するために、薬袋の名前の確認、日付の記入、飲み忘れ防止のための記録を行い何度も確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 好きな飲み物を選んでもらったり、料理の手伝い、洗濯物干し、畑の手入れなど体調やその日の状態を考慮し一人ひとりに合った役割を持って頂き、生活の楽しみや活力になるよう支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 年間行事計画を立て、利用者の状態や体調などを考慮し、外出を行っている。ご家族の方にも参加して頂き、食事、買い物へ出掛けている。利用者様やご家族様の希望を把握し、ご家族との買い物や外食など出来るように支援している。 (外部評価) 利用者の希望や季節に応じた外出を取り入れて、職員が毎月の行事と外出計画を作成し、外出する機会を増やしている。外出行事には家族の参加もあり、一緒に外出することを楽しみにしている利用者も多い。利用者個別の外出希望は家族の協力を得て実現することが多いが、受診介助の帰りなどに買い物などに出かけられる支援もしている。外出することにより利用者の意欲や生活の張りに繋がるよう、今後は個別での外出支援を充実させることを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理の出来る方はご本人の希望、家族の方にも相談し、お金の所持、支払が出来るよう支援している。管理できない方は必要な物を職員が話し合い購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に沿って、大切なご家族や友人の関係を繋ぐ為、電話や手紙などで外部との交流を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節感を取り入れ、感じられる工夫に努めている。また温度調節や1日の時間に応じた外光の取り入れや空気の入替えなど利用者の方々が居心地よく過ごすことができる様に努めている。</p> <p>(外部評価) 共有空間はリビング兼ダイニングとなっており、大きな窓から明るい光が差し込み気持ちの良い空間となっている。長い廊下を活用して歩行訓練をしたり、畳スペースはバリアフリーで利用者がくつろぎやすくする工夫をしたりするなど、スペースを利用者に合わせ、有効活用している。壁には毎月利用者と一緒で作成した季節感のある飾りが飾られており、利用者の安心感に繋がっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングのテーブルでは仲の良い方同士が日中お話をされたり、ソファでテレビを観ながら会話を楽しんでおられる方もいる。また畳の空間にて新聞を読まれたり居室にて過ごされたり思い思いの時間を過ごしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自宅で使用されていた馴染みのものを持ってきて頂いており、自宅のような空間作りを行い安心して生活できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には木目の表札と利用者の好みの防災加工をした暖簾を掛けている。居室には孫やひ孫の写真、手作り作品を飾るなど、居心地良く過ごせるような空間づくりに努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の各居室に表札、写真などを貼って自分の部屋が分かるように工夫している。トイレ、風呂場など共有部分には混乱しないよう表札をつけている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103995
法人名	株式会社ファミリーケア
事業所名	ファミリーケアなかの
所在地	松山市中野町甲293-2
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一人ひとりが、利用者様に安心して楽しく生活して頂ける様、日々の会話を大切に、笑顔や忘れず笑い声のある和やかな環境を心掛けています。また、信頼を頂けるよう、接し方に気を配っており、困りごとや希望が言いやすい雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を迎える事業所は、松山市郊外の田畑や木々などに囲まれた広い敷地にあり、四季折々の季節を感じることができる。2～3年前に利用者の入退所が相次ぎ、比較的介護度の低い利用者層への入れ替わりがあったため、利用者同士の絆を含めた支援に努めている。利用者同士が助け合いながら生活が送れるよう、スタッフは黒子のような存在となりながら、「夢(思い)を叶える」という理念を念頭に置き、ケアに取り組んでいる。自然に利用者の中には役割り分担ができ、張りのある生活へと繋がっている様子が伺えた。事業所に家族や知人が気軽に訪問できるよう取り組んでおり、一緒に行事に参加してもらう工夫をしている。職員の対応で気になる点があれば、その場に集まり話し合える環境が整っており、情報を共有しながら一貫性のあるケアに取り組むことができています。また、職員が利用者毎の担当制を取っており、介護支援専門員と共に介護計画の作成に携わっていることにより、介護職としての自信に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ファミリーケアなかの

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 青木 久子

評価完了日 平成 26 年 8 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設当初からの理念であり、一人ひとりの「思い=夢」を大切に日々の生活を送って頂き、地域社会と協力し支援していく様に努めている。本社よりの理念・行動指針・基準を設定しており、質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 「利用者の『夢・思い』を大切にしながら支援したい」という職員の願いなどを込めた理念を作成している。申し送り時や月1回のミーティング時に理念の振り返りを行い、職員間で気づいたことは実践の中でお互いに声をかけ合いながら、日々のケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ごみ置き場の提供、秋祭りには地域の方々の休憩所として使って頂き、まもるくんの家に登録し立ち寄りやすい場である様とし、また町内の川掃除も参加している。</p> <p>(外部評価) 民生委員や地元に住んでいる職員から地域の行事などの情報を得て、利用者と一緒に参加するよう心がけている。近隣には新興住宅があり、秋祭り時などは休憩場所として面識のある近所の子どもがトイレを借りに来ることもある。地域には児童養護施設があり、クリスマス会などの行事には職員と子ども達がダンスを披露してくれるなど、利用者は楽しみにしている。事業所の行事には知人や家族などの参加もあり、気軽に訪問してもらい地域に根ざした事業所となるよう努めている。また、認知症の相談に応じるなど、地域へ情報を発信していくことを検討している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 利用者のご家族様の知人のなど相談を受けている。認知症、介護方法などで悩んでいる方の相談の場として、運営推進会議や家族会に参加出来る様、窓口を広げている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ご家族、介護保険課、地域包括、看護師の方に参加をして頂き、状況報告、加算、食事メニュー、看取り介護、金銭管理、ケアプランなどについて話し合い意見を頂いている。また、お花見、クリスマス会の時に運営推進会議を行いご家族間や地域の方々との繋がりを深めるようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域包括支援センター職員、他の施設職員、市担当者等の参加を得て2か月に1回開催している。会議では活動報告のほか、災害対策や看取りなどのテーマで参加者と活発な意見交換をしている。また、同時にクリスマス会などの行事を開催する工夫をするなど、家族や知人の参加も多い。運営に参考になる意見が数多く出されており、運営やサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方に運営推進会議に参加して頂き、相談・助言を頂いており、その場で分からないことは持ち帰り適切な助言を頂いている。また必要に応じ電話にて相談をしている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の実情や取組みを伝えるほか、感染症などの情報やアドバイスをもらっている。また、必要に応じて、生活福祉課など他の部署と連携を取りながら、利用者の生活を支えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施錠はせず、気候の良い時期には、ホールの入り口を開放している。研修への参加も行い、その後、勉強会を開いており、拘束の理解は出来ている。	
			(外部評価) 年間の研修計画に身体拘束等の勉強会を必ず盛り込み、身体拘束をしないケアについて考える機会を設けることで、職員間の意思統一を図り理解して実践している。また、日々のケアの中で利用者の行動を強要する声かけをしていないかなど、申し送り時に話し合いながら、利用者の思いに寄り添うケアに努めている。また、玄関は自由に出入りすることができ、職員は外出しようとする利用者の後をついていくなど見守りをして対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 行動や声掛け等、職員同士が注意、確認、相談を行い防止に努めている。研修会に参加し、勉強会も行っている。また、利用者の方への心身の異常にも気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度は知っているが、十分に理解は出来ていない。今後、勉強会、研修に参加して知識を付ける必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な話し合い、分かりやすい説明を心掛け、納得を頂ける様、努めている。改定などの変更にも速やかな対応と説明を十分に行っている。入退所時にも細かく説明を行っている。また、運営推進会議においても再度加算などの説明をしている。要介護認定変更時にも話し合い説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にご家族、地域の方など開催の連絡を行い参加して頂いている。面会時には利用者の方の様子を説明し、ご家族のご意見やご要望を伺い、全職員に申し送りをし思いを共有している。	
			(外部評価) 職員は家族に事業所を「母親の家だと思って入って来てください」と伝えるなど、訪問しやすく話しやすい雰囲気づくりをしている。家族の訪問や行事への参加も多く、気軽に意見を言ってもらっている。また、手紙や電話などで利用者の様子を伝え、良好な関係づくりに努めている。遠方や疎遠になりがちな家族には、管理者が家族の状況を配慮しながら電話連絡し、意見を聞き、事業所との関係が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい職員がいる為、思いや意見を言いやすい環境作りに努めている。意見箱も設置しており、本社へ直接意見が出来る様になっている。	
			(外部評価) 管理者は日頃から介護現場へ入り職員と一緒に業務をしているため、職員は意見や要望を伝えやすい環境である。会社の部長も頻回に事業所を訪れ、事業所での課題や要望に迅速に対応できる体制が取れているほか、会社全体で職員の働きやすい職場づくりに取り組んでいる。また、職員の育成にも力を入れており、外部研修に頼るだけでなく会社として年間の研修計画があり内容も充実しているため、自己研鑽ができ介護職としての自信にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年ごとに自分で目標を立て個々の進み具合を確認出来るシステムがあり個人のスキルアップを図っている。それらにて給与の見直しに反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内研修・外部研修の案内を職員に伝え希望者、または必要と思われる職員には受講できるよう考慮している。また、研修報告を行い全員のスキルが高まるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議参加の案内はしているが出席はして頂けていない。他事業所との繋がりを持てるよう連絡会には参加するようにしている	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にはご本人、ご家族の方にホームを見学して頂き、話し合いの場を設けている。 ホームに来られない方には訪問し、お話をさせて頂いている。ホームで安心して生活して頂けるようご本人の要望、不安など言いやすい環境づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談し、ご家族の要望をしっかりと聞き取り知り得た情報は職員全員が理解と共有を行い、安心して頂けるよう支援する。気になる事があればその都度ご本人、ご家族様へ報告を行い速やかに対応を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族様の希望を面談時にしっかりと聞き取り、今、必要としていることを見極め支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中でご本人が出来ることは行って頂き、家事などの手伝いが嫌いな方には、話題の提供などを行い、楽しい時間を過ごせる様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム内で行う、お花見、秋祭り、クリスマス会などに参加して頂き、楽しい時間を共有している。また炊事、後片付けなども一緒に行い、ご家族間、職員との繋がりを深められる様にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 遠方より送り物が届いた際には、職員より電話をおかけし、ご本人に代りお話をさせて頂いている。クリスマス会にて交流を持ったお子さん達へ手紙を出している。 (外部評価) 家族の協力を得て石手寺へ参拝したり、家族と共に知人が行事に参加したりと、馴染みの関係が途切れないような働きかけを行っている。同地域の児童養護施設の子供たちとの交流もあり、継続して手紙交換をするなど、新たな馴染みの関係も構築されつつある。今後は、パート職員の協力を得ながら個別の外出支援を充実させ、希薄になりがちな馴染みの関係に目を向けた支援を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他者と一緒に料理の下準備、野菜の皮むきなどをされている。家事、手伝いの嫌いな方には話題を提供し、他者との交流を持てる様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 記録などは規定に基づき保存し、いつでも提供できるようにしている。また、ホームを出られた方にはいつでも相談を受けられる体制を整えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの意志を尊重し相談事などは居室内で話し合っている。職員全員がが利用者の思いや意向について把握しようと努めている。把握が困難な場合は、ご本人の視点に立って話し合いを行っている。追記シートを新たに作り気付きを記入し、全職員の情報の共有ツールとなっている。 (外部評価) 日常会話の中から利用者の思いや希望をくみ取り把握するようにしている。普段言葉に出さない思いを職員と1対1となる居室や入浴時などに話をする利用者もあり、職員は傾聴し把握している。新たに把握した内容は、申し送り時などに報告し職員間で共有して話し合い、家族の協力を得ながら実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の入所前の生活歴や入所に至った経緯など、話し合いの中から知り、職員がご家族の方と良い関係が築ける様に努め、入所後も本人やご家族の方との話し合いで新たな情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の生活リズムを全職員が理解し、心身の変化に気付く様、申し送りなどで話している。ご本人の出来ること、分かることを普段の様子や会話の中から常に発見出来る様に心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティング時や申し送り時に気付きなどを話し合い、ケアプラン作成に活かしている。ケアプラン変更時には、A、B、Cで評価（A達成・B継続・C出来ていない。）しているが、7月より様式を変更する。モニタリング及び、評価の欄を設け、達成率の分かりやすい書式の様式を見直した。 (外部評価) 職員の利用者毎の担当制を取っており、利用者や家族の思いや意向を介護計画に反映しやすく、利用者本位の介護計画になるよう留意している。作成した介護計画はカンファレンスで職員全員が共有し、目標が達成できるよう努めている。今年の7月から新たな記録様式に変更し、職員全員が日々のケアの中で実施状況を記録し、分かりやすくモニタリングが行えるよう現在試行段階である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の関わりを持ち続けている中での気づきを具体的に記録し、申し送り時やミーティングに話し合い、日々のケアを行っている。また介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 受診に行けない方への訪問医療、訪問マッサージなど、希望に沿って対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的に訪問美容を利用している。ボランティアの方など地域の方々と交流を持てる様にしている。消防署の協力を得て避難、応急手当講習を定期的に受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に、ご本人とご家族の方に相談し、主治医を決めてい る。また、内科医とは別に精神的な症状のある場合には心療 内科などを相談の上、受診出来る様にしている。歯科もしく は皮膚科など、受診困難な方には往診をお願いしている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きる。精神科など専門医の受診介助は職員が同行している が、通常受診は家族が同行している。受診内容は家族に聞 き、医療ノートに記録して情報を共有している。事業所には 3名の看護師を配置しているほか、職員全員が利用者の健康 状態を把握するよう努めて支援しており、利用者や家族の安 心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ユニットごとに看護師が配置されている。健康状態など全職 員が気を配れる様に、医療ノートを個別化しており、情報を 共有し意見や相談が出来る様に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院が必要とされる時は主治医に手配をお願いしている。主 治医や入院先の医師の方と情報共有や相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にも終末期のホームでの取り組みを説明している。終 末期だけでなく運営推進会議等で看取りケアについての話し 合う機会を持っている。また、その状況に至った場合には家 族・医師・ホームで話し合いをもち、お互いの理解の中で家 族の協力・職員のチームケアが出来るように取り組んでい る。	
			(外部評価) 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、終末期に事 業所で対応できる内容を入居時に利用者や家族に説明してい る。事業所では数名の看取り支援の経験がある。利用者や家 族の安心と納得が得られるよう、段階に応じて医師を含めて 繰り返し話し合いを行い、家族の協力を得ながらチーム体制 で安心して最期が迎えらるよう支援をしている。また、他 の利用者もその状況を受け入れて一緒にお見送りを行い、 「看取り支援」を事業所全体で取り組んだ経験もある。今後 も職員間で勉強会を実施し、安心して事業所を利用してもら えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルを備えている。ほとんどの職員が普通救命講習を取得しているが、消防署の協力の下、定期的(年1回)に応急手当の訓練を行い、しっかり対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。災害時には地元の消防団の方に協力して頂ける事になっている。食料や水の備蓄は常に行っており、災害時は地域の方を受け入れる体制も出来ている。警備会社との契約もしている。	
			(外部評価) 年2回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。災害対策について運営推進会議で参加者と意見交換を行ったり、避難訓練の前には職員間で事前に話し合い、訓練後には消防署員に疑問点などを質問しアドバイスを得ている。職員の家族に消防団員がおり、災害発生時には協力をお願いしているほか、警備会社が駆けつけてくれる契約をしている。会社として風水害の防災マニュアルを作成しているが、南海トラフ地震に備えたマニュアル作成を現在検討しており、マニュアルができ次第、事業所独自の対策を行う予定である。	利用者の安心安全な生活を守るため、職員間で災害に備えた話し合いを継続して行い、自主的に避難訓練を継続して行うことを期待したい。また、会社として地震対策などのマニュアルを作成しているが、災害ケースや地域の実情に合わせた事業所独自のマニュアルを整備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格を理解した言葉掛けを行っている。好ましくない声掛けには、職員間で注意し、相談事などは居室にて傾聴している。	
			(外部評価) 日頃から利用者への声かけやケアには気を配り、一人ひとりの状況に合わせた対応をしている。男性職員が多いが、入浴介助などは利用者の同性介助の希望や要望を聞きながら、羞恥心やプライバシーにも配慮した支援をしている。利用者を尊重した対応を心がけているが、気になることがあった場合には職員間でその都度注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望や頼みごとなどが出来やすくなる様、声掛けを行っている。自己決定が出来ない方に対しては、表情などを見て、気持ちを汲み取る努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事はご本人のペースに合わせて食事介助を行っている。入浴は午前でも午後でも希望を聞き入って頂く様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容師に定期的に来てもらっている。化粧品などもご本人の希望に合わせて購入している。買い物時には好みの服も購入している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼食時に各テーブルにスタッフが座り、楽しい話題、雰囲気の中、食事をしている。下膳、テーブル拭きなど出来ることをして頂いている。	
			(外部評価) 利用者の希望のメニューを取り入れながら、栄養面や品数、味付けなどに配慮して献立を作成し、職員が調理している。近隣からの差し入れや事業所の畑で取れた旬の野菜を使ったメニューをその都度加えている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気ですべてしている。また、お花見弁当を作って外出先で食べたり、外食も取り入れたりするなど、利用者に食事が楽しめる工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事及び水分摂取量の確認を行っている。一人ひとりの状態により食事量の調節を行っている。その方に合った食事形態（ミキサー食、刻み食、とろみ使用など）にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で口腔ケア出来ない方にはブラシや口腔ティッシュにて清潔の保持に努めている。義歯を使用していない方は口腔洗浄液にてうがいをして頂いている。義歯の方は一晩洗浄剤にて洗浄して頂く様、声掛けを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記入を行い、個々の排泄時間を把握する様に努めている。定期的にトイレ誘導することにより、トイレでの排泄も出来るようになった入居者の方もいる。	
			(外部評価) 排泄時チェック表を記録し利用者一人ひとりの排泄パターンとその人にあった排泄リズムを把握し、声かけをして誘導しトイレで排泄できるよう支援している。重度化のためやむを得ずオムツを使用している利用者もいるが、排泄方法などはミーティング等で話し合い、利用者に合わせた排泄方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄の記録により個々に合ったタイミングでのトイレ誘導が行える様に努めている。食事形態・水分摂取量に気を付けているが、便秘気味の方には必要に応じて医師の指示の下、緩下剤を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間など出来るだけ本人の希望に沿うように努めている。安心・安全な入浴が出来るように同性職員の介助の希望に対応したり、介護度の高い方には、二人介助で行っている。	
			(外部評価) 浴室にはシャワーチェア等の福祉用具を設置している。重度化している利用者にも安全に湯船に気持ち良く浸かれるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、無理強いせず声かけを工夫するなど、見守りながら入浴したい気持ちになるよう対応している。また、同性や異性介助の希望にも配慮しながら、気持ち良く気兼ねなく入浴ができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中出来るだけホールにてお話をしたり、お手伝いをして頂き夜間安眠出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬の目的・副作用・用法・容量を理解するように努めている。飲み忘れや誤薬を防止するため薬袋に日付・氏名を記入したうえで、手渡し、内服までの確認を行っている。バイタルや体調の状況を記録し医師に報告・相談をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 水分時は好きな飲み物を選んで頂いている。洗濯干し、おぼん拭き・テーブル拭きなど役割を持って頂いており、体調の良い時には、料理の下準備も手伝って頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 年間行事を立てており、利用者のペースやレベルに応じた外出を行っている。長時間離床が困難な方には庭にて外気浴の時間を提供している。ご家族と外出できるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望や季節に応じた外出を取り入れて、職員が毎月の行事と外出計画を作成し、外出する機会を増やしている。外出行事には家族の参加もあり、一緒に外出することを楽しみにしている利用者も多い。利用者個別の外出希望は家族の協力を得て実現することが多いが、受診介助の帰りなどに買い物などに出かけられる支援もしている。外出することにより利用者の意欲や生活の張りに繋がるよう、今後は個別での外出支援を充実させることを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望を聞き、ご家族に相談のうえ、金銭の所持や支払を行えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話での家族の交流の継続に努めている。レベル低下の方へ手紙が届いた時は代読をしたうえで、職員が電話にて様子をお伝えしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室入口に暖簾をかけプライバシーの保護とテレビの音、ホールの温度設定を行っている。季節感を感じられる様、月一回壁画作りを行っている。</p> <p>(外部評価) 共有空間はリビング兼ダイニングとなっており、大きな窓から明るい光が差し込み気持ちの良い空間となっている。長い廊下を活用して歩行訓練をしたり、畳スペースはバリアフリーで利用者がくつろぎやすくする工夫をしたりするなど、スペースを利用者に合わせ、有効活用している。壁には毎月利用者と一緒で作成した季節感のある飾りが飾られており、利用者の安心感に繋がっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 座椅子にて寛がれる方・リビングのテーブルにて仲の良い方同士でお話しをされたり・居室で過ごされたりと思いいの時間を過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使っていた愛着のある物の持ってこられている。ご家族の写真を壁に張っている。ベッド・タンス等の配置もご家族・ご本人と相談し自宅のような空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には木目の表札と利用者の好みの防災加工をした暖簾を掛けている。居室には孫やひ孫の写真、手作り作品を飾るなど、居心地良く過ごせるような空間づくりに努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の各居室に表札・写真などを貼って自分の部屋が分かるように工夫している。トイレ、風呂場など共有部分には混乱しないように表札を付けている。</p>	